

Title	家計の消費支出構造にみる家庭用エネルギー需要 - 一般均衡モデルによる計測と家計の特性別分析 -
Sub Title	
Author	渡辺 穰(Watanabe, Yutaka) 藤枝 省人
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1983
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1983年度経営学 第316号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001983-0316">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001983-0316</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	渡 辺 稜 ( 中部電力株式会社 )	主査 藤 枝 省 人 副査 青 井 倫 一 田 中 滋
所属ゼミナール	田 中 滋 研	

## 家計の消費支出構造にみる家庭用エネルギー需要 —一般均衡モデルによる計測と家計の特性別分析—

本研究は、家庭用エネルギー需要について、家計の消費支出構造面からのアプローチにより、実証的な分析を行なったものである。本研究における主要なテーマは、(1)家庭用各種エネルギー間の競合関係 (2)家計の諸特性(所得階層、世帯人員、住居所有関係、地域)に起因する消費支出構造の差異の2点の明確化である。分析にあたっては、数々の優れた計量経済学研究を発表しているKEO(Keio Economic Observatory)グループの枠組に準拠した方向をとった。具体的には、“習慣形成効果を内蔵したベルヌイ・ラプラス型選好関数に基づく一般均衡モデル”を採用した。この一般均衡モデルは、理論的精度の高さを誇るのみならず、研究テーマの一つであるエネルギー間の競合関係を陽表的に処理しうるものである。また、パラメターの推定方法としては、構造パラメターの識別および多重共線性にまつわる諸問題を回避するため、完全決定法を使用している。計測結果に対しては、必需度および需要の弾力性という分析概念を適用して考察を行なった。この結果、必需度、需要の弾力性について、費目間、家計の特性別に明確な差異が浮き彫りにされた。この差異に関し、エネルギー需要としてのエネルギー財の用途汎用性、エネルギー消費機器の保有状況等を総合的に勘案することにより、エネルギー財間の競合関係や、家計の特性による差異の把握に成功した。